

ば ば 馬場No. 1 遺跡

— 古代の集落の景観と生活 —

嘱託調査研究員 加藤 有花

遺跡の立地と周辺遺跡

馬場No.1遺跡は四街道市物井字新田に所在し、鹿島川左岸の標高30mほどの台地上に立地している。

鹿島川流域は遺跡の宝庫であり、小名木川や高崎川などの鹿島川の支流やこれらの河川の合流箇所付近にも各時代を通じて非常に多くの遺跡が残されている。遺跡は物井地区だけでも濃密に分布しており、古墳の分布範囲が東西1.6km、南北1.1kmに及ぶ物井古墳群をはじめ、区画整理事業に伴い調査された稲荷塚遺跡、小屋ノ内遺跡、御山遺跡、新久遺跡、清水遺跡、出口遺跡などの物井遺跡群と称される諸遺跡がある。なお、現在、財団法人千葉県教育振興財団で物井遺跡群のなかで最も馬場No. 1 遺跡と近接している小屋ノ内遺跡と御山遺跡の整理作業が行われている。

調査の概要

2005年秋から冬にかけて5ヶ月間にわたって宅地造成に伴う事前調査を実施した。今回の発掘調査では調査対象面積3,700㎡から弥生時代中期後半の方形周溝墓が8基、古墳時代後期の竪穴住居跡が1軒、奈良時代から平安時代の竪穴住居跡が25軒、掘立柱建物跡が1棟、その他に古代の道路跡や斜面地に形成された階段状の遺構、土手状の遺構や近世の炭窯が発見された。

調査の成果

〈弥生時代〉

弥生時代中期、鹿島川下流域に拠点的な集落が誕生する。それは弥生時代から奈良・平安時代の大集落である六崎大崎台遺跡である。ここでは、環濠を境に生活域と墓域が明確にわかれ、中期宮ノ台式期には建て替えを含めて実に205軒もの竪穴住居跡が

確認されている。この遺跡の周辺には、寺崎向原遺跡、六崎貴舟台遺跡、鹿島川左岸では臼井屋敷遺跡など、中期の墓域と後期の集落が密集して展開していることが知られている。

物井地区では、小屋ノ内遺跡や稲荷塚遺跡、御山-1遺跡などに弥生時代後期の竪穴住居跡が確認されているが、中期の集落跡は未発見で、馬場No.1遺跡の方形周溝墓は、墓域と同じ時期の集落跡が付近に存在していた可能性があるものと思われる。

〈古墳時代〉

古墳時代後期には、手繰川と鹿島川に挟まれた地域に物井古墳群が形成される。物井古墳群は、千代田古墳群や内黒田で認識されている古墳もあわせると、その分布範囲は広く、東から御山遺跡、小屋ノ内遺跡、中心に新久遺跡、清水遺跡、その南側には出口遺跡、西側に千代田古墳群、内黒田遺跡群の池花南遺跡に及んでいる。さらに周辺には山梨古墳群や栗山古墳群、亀崎古墳群など小規模な古墳群が分布している。

物井地区で古墳築造期と重なる時期のまとまった集落跡としては、入ノ台遺跡、館ノ山遺跡が知られている。いずれも古墳群から離れた箇所に形成された集落跡である。馬場No.1遺跡では少ないながら古墳時代後期の竪穴住居跡が1軒確認されており、古墳群の被葬者との関連が問題となるのではないだろうか。

〈奈良時代〉

その後、馬場No.1遺跡では、8世紀中葉に集落が形成される。大型の26号竪穴住居跡からは、常陸国や武蔵国など他地域の土器もみられ、それらの国々との交流をうかがい知ることができる。

〈平安時代〉

馬場No.1遺跡では9世紀に17軒の竪穴住居跡が営

まれ、最盛期を迎える。住居内からは、房総で焼かれたと思われる須恵器が多く出土し、なかには焼く前に「奉」と刻まれた甕もみられる。その他に、2号竪穴住居跡から出土した僧侶が携えていたと考えられている鉄鉢形土器、7号竪穴住居跡から出土した帯釜具などの特殊遺物がみられ、これらは当遺跡の性格を考えるうえで重要な遺物である。

この時代で注目されるのは、道路跡である。幅3mと小規模ながら、官道にみられるような側溝が検出され、何度も繰り返し使用されたものであることが判明した。おそらく、長期にわたって集落と集落とを結ぶ主要な道として活用されていたのではないだろうか。このような道路跡は小名木川対岸の相ノ谷遺跡からも発見されており、中世に至っても利用された道であることが考えられている。

奈良・平安時代の物井地区

古代において、物井地区は千葉郡物部郷もののべごうに属していたと考えられている。馬場No.1遺跡から南西500mに所在する小屋ノ内遺跡は、一般の集落とは一線を画す内容をもつ遺跡で、台地の南側に古代の役所跡の構造に類似する「コ」字状に配列された掘立柱建物群が発見されており、物部郷の中心地と推測されている。また、台地先端に独立して建てられた掘立柱建物跡の付近の竪穴住居跡から仏具と思われる香炉の蓋などが発見されており、集落内もしくはその周辺に仏教的な施設も備わっていた可能性が考えられる。その北側には、奈良時代から平安時代を通じて100軒以上の竪穴住居跡が発見された稻荷塚遺跡があり、馬場No.1遺跡とは小さい谷津を隔てて隣り合っている。さらに北側の御山遺跡では方形区画墓（方形周溝状遺構）や土坑墓などが検出され、古墳時代から引き続いて墓域が展開することが明らかとされている。

このように、馬場No.1遺跡に近接する遺跡から掘立柱建物群と居住域、墓域がまとまって発見され、一地域の社会像が明らかになりつつある。古代の馬場No.1遺跡はより鹿島川や小名木川に近いことから、交通の要衝ようしゅうと考えられる。そして、水源が近く

にあり、農耕に適した豊かな土地という地の利に立脚して繁栄した集落と思われる。

おわりに

馬場No.1遺跡では物部郷と推定されている集落の景観が垣間みえたばかりである。今後は、物井遺跡群や北側の吉見地区、南側の小名木川対岸、東側の鹿島川対岸を含め、総括的に各遺跡との関連を検討することが課題となるだろう。



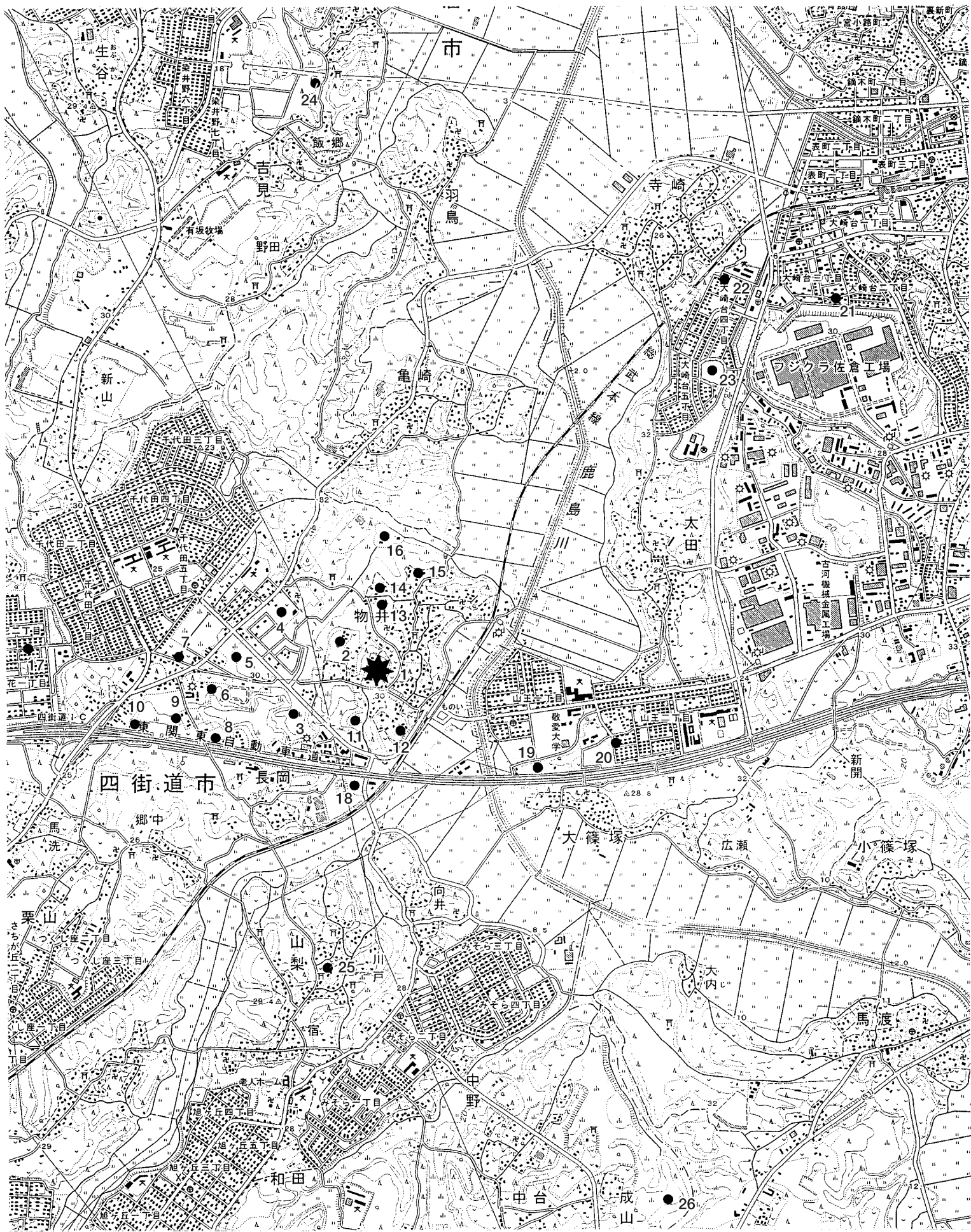
調査区遠景



道路跡

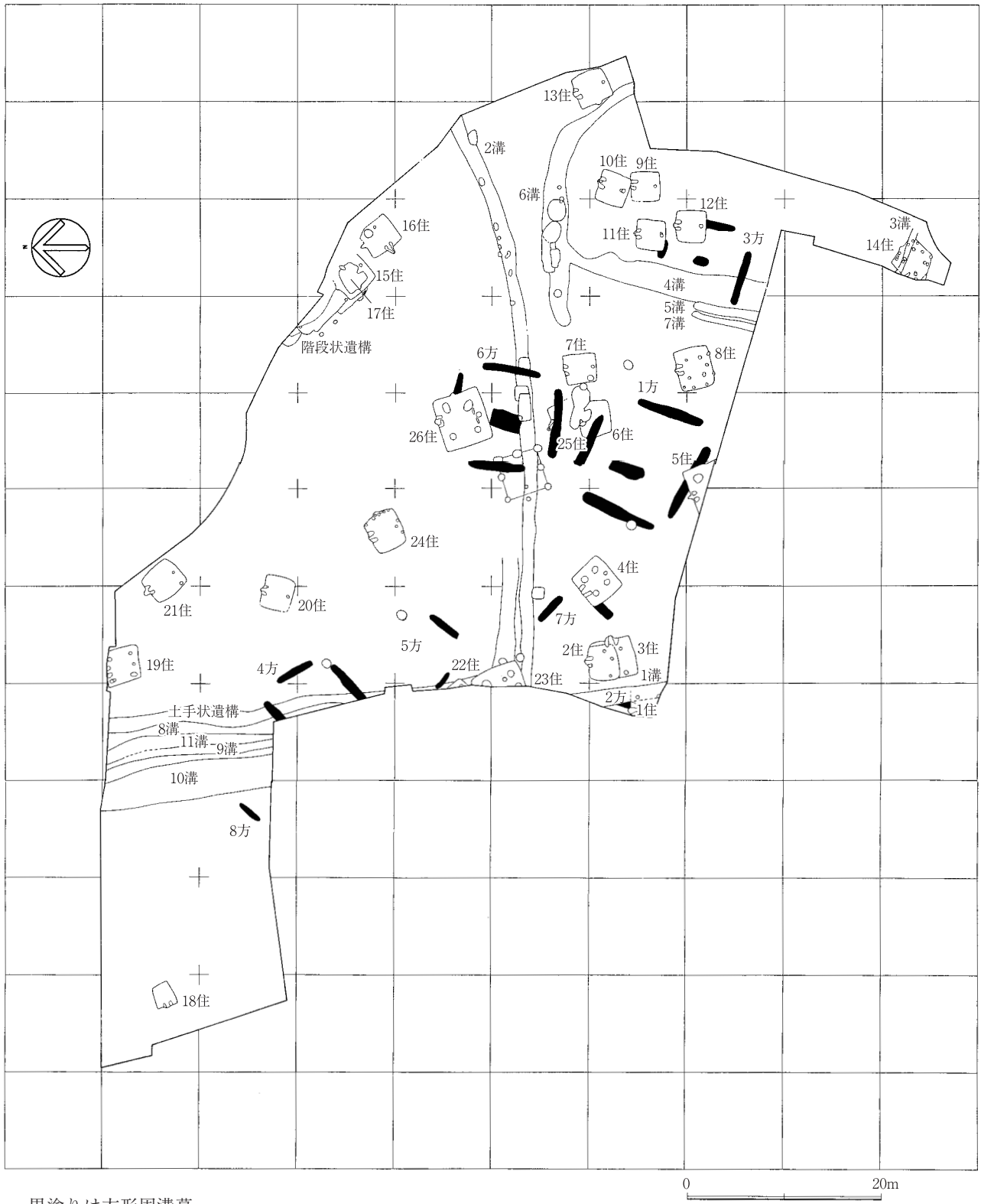


調査風景



1. 馬場No.1遺跡 2. 稻荷塚遺跡 3. 小屋ノ内遺跡 4. 御山遺跡 5. 新久遺跡 6. 出口遺跡 7. 清水遺跡 8. 棒山・呼戸遺跡 9. 出口・鐘塚遺跡 10. 高堀遺跡 11. 館ノ山遺跡 12. 嶋越遺跡 13. 郷遺跡 14. 古屋遺跡 15. 北ノ作遺跡 16. 中久喜遺跡 17. 池花遺跡 18. 入ノ台遺跡 19. 大篠塚西台古墳群 20. 太田・大篠塚遺跡 21. 六崎大崎台遺跡 22. 寺崎一本松遺跡 23. 寺崎向原遺跡 24. 白井屋敷跡遺跡 25. 相ノ谷遺跡 (第2地点) 26. 南作遺跡

第1図 周辺の遺跡 (1/2,500)



黒塗りは方形周溝墓

第2図 馬場No.1遺跡遺構配置図 (1/600)